

看護 しずおか KANGO SHIZUOKA

vol. **4**
平成26年度

- 未来の白衣の天使たち P4・5
- あなたはどのように考えますか? (男性看護師研修会)
見つけよう! 私のキャリア・デザイン P6・7
- 先人に聞く 忘れられない看護 看護を政治に P3
- 看護職ウォッチャー!! 第3回
もう“ひとこと”で仕事が生きる! P8



11月5日 津波防災の日 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練
(すすかけセントラル病院)

会員数 19,160名 (平成26年11月11日 現在)

●保健師	531名	●看護師	16,909名
●助産師	743名	●准看護師	977名



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



平成26年度 第3回理事会報告

■開催日時 平成26年10月21日(火) 14:00～16:00

■会場 静岡県看護協会 第1会議室

出席理事:19名、欠席理事:2名 定款第38条に基づき、定足数10名を満たしていることを確認

出席監事:3名、欠席監事:なし

1.協議事項(すべての事項について承認される)

(1)役員等の推薦及び推薦委員会に関する規程一部改正(案)

(3)平成26年度中間事業報告

(2)職能委員会規則の一部改正(案)

・会務庶務報告 ・教育研修部報告 ・事業部報告

看護師職能委員会は、看護師職能委員会I(病院領域)、看護師職能委員会II(介護・福祉関係施設・在宅等領域)に改正。(平成27年度から)

(4)平成26年度中間会計報告

2.報告事項

(1)平成27年度「看護の日・週間」企画実行委員会委員について

(4)メールマガジン配信サービスについて

(2)会員入会の申請状況

(5)税務調書の実施状況について

(3)平成25年度静岡県看護職員退職者調査結果について

平成27年度 改選役員および推薦委員への立候補の届出について(公募)

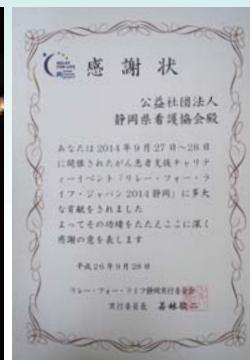
平成27年6月30日(火)(予定)に開催される平成27年度定時総会において、改選役員および推薦委員の選挙を実施いたしますので、立候補並びに受付期間についてお知らせいたします。(任期は平成27年6月定時総会終結後～平成29年6月定時総会終結まで)

公募役員および 推薦委員	○改選人数と役職名 1. 役員21人 (1)会長1人、副会長2人 (2)理事8人 (専務理事1人、常務理事2人、保健師職能理事1人、助産師職能理事1人、看護師職能理事2人、准看護師理事1人) (3)地区理事8人(賀茂、熱海・伊東、東部、富士、静岡、志太榛原、中東遠、西部) (4)監事2人 2. 推薦委員8人	立候補の方法	役員に立候補しようとする者は、正会員5名以上の推薦を受けて届け出なければならない。(細則第19条より)
		届出の方法	立候補届け出用紙に記入の上、下記宛先に郵送してください。用紙は事務局に請求するか静岡県看護協会ホームページ【お知らせ】情報からダウンロードしてください。
		宛 先	〒422-8067 静岡市駿河区南町14番25号 エスパティオ3階 公益社団法人静岡県看護協会 選挙管理委員会宛
		締 切 日	平成27年2月27日(金)

がん患者支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014静岡」にチーム参加

リレー・フォー・ライフの趣旨に賛同した看護協会の職員や役員・委員等でチームを組んで参加しました。がん征圧の思いを込めて静岡県立大学芝生園地で24時間リレーウォークをしました。

9月27日(土)～28日(日)の開催でしたが、奇しくも27日(土)は、御岳山噴火発生の日でした。尊い命をなくされた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



救護の協力もしました

先人に聞く 看護を政治に 忘れられない看護

第1回



白松万里子さん

昭和8年生まれ(81歳)

今回は、臨床、看護教育の豊富な経験をもとに、長く静岡県の看護協会長・看護連盟会長として活躍された白松万里子さんに、看護学生時代の思い出、看護に対する熱い思いなどをお伺いしました。(インタビュー 2014年8月8日 於 看護協会会館)

《学生時代》……………

看護学校入学

昭和20年8月15日に第二次世界大戦が終結し、日本に残ったものは大きく破壊された山と川、そして焼けた家々の姿でした。そのような中で人々の心はすさび、ぼろぼろとなり、呼吸をするのがやっとなような状態で「何とか一日を暮して行ければよい」というのが精いっぱいという時代でした。

当時は今に比べて「化学や科学」の学問も未発達で、衛生思想も低く、病に苦しむ人々が多く、70歳以前に亡くなる人が多々おりました。一方、人々の生活も苦しく、皆んな必死で働いて参りました。

厳しい戦争が終わって7年後の昭和27年4月に、私は静岡赤十字高等看護学院(後の静岡赤十字看護専門学校)に入学しました。

人の為に役に立つ職業に就きたい

当時は、中学や高等学校を卒業して働く職業婦人は少なく、さらに進学して専門の職業を身につけるといったことは、本当に少なかった。私が中学生の時は、42人のクラスの中で、高校に進学したのは6人だけ。そこからまた職業を選んで学校に行くことは簡単ではなかった。多くの人が中学卒で、女子は紡績工場に働きに行く人も多々おりました。

私の母は、教員をしていて、自分が職業婦人だったせいもあって、「どんな時代が来ても、手に職をつけておくことが大事だ」と、よく言っていました。

私も人のために役に立つ専門的な職業に就きたいと考え、看護婦になることを決めました。母はすんなり受け入れてくれました。母の時代看護婦は花形の職業で、わけても赤十字の看護婦は(戦争のときは従軍しなければなりません)母にとってあこがれの対象であったのだと思います。

静岡赤十字高等看護学院

静岡赤十字高等看護学院の3年間、同級生は13人でとても小さなクラスでした。今も強く頭に残っているのは、『愛と奉仕の精神』(「赤十字精神」イコール「ナイチンゲール精神」)を、毎日毎日叩き込まれたことです。

学校は全寮制(同じ建物に卒業生も大勢入っていました)でした。寮の部屋は和室で、一部屋に3年生から1年生まで各学年2名ずつ6名です。常に上級生がおりましたので、精神的にとっても大変でした。

言葉づかいにしろ、態度、動作にしろ、すごく厳しくて寝ぼけてなどいられませんでした。物入れは、一人に1つだけ二段になった押入れが与えられ、それが唯一自分のスペースでした。

就寝時は、各自自分の押し入れの前に布団を敷き寝るのですが、足を押し入れ側にし、相互に頭を突き合わせた格好になり、就寝時にも気を使いました。

とにかく自分の部屋に帰っても、上級生がおりますので、のんびりできませんでした。

神経の擦り減る言葉使い

言葉づかいが最も厳しかった。例えば、3年生になると夜勤実習があるんですが、夜勤実習の後には「申し送り」(引き継ぎ)をしないといけない。「申し送り」の場には、婦長さんはじめ卒業生(スタッフナース)、上級生がおります。40余名の患者の「申し送り」を、学生1人でするのです。その時の言葉がととても大変でした。例えば「この方は夕べ疼痛があつて、注射をしました」ではダメなんです。「この方はお痛みがございまして、お注射を何時何分にいたしました」と言わなければいけません。とにかく言葉を使うのに神経を使いとても大変でした。時にはその場から逃げたくなる思いでした。

それが実習時だけでなく、日常でも、寮に帰ってもそうでした。

電話の応対もまた大変で、電話は食堂の入り口にありましたが、食堂の席は、奥から卒業生、3年生、2年生、入り口が1年生と、暗黙のうちに決まっていました。だから電話が鳴れば必ずから1年生が対応することになるのですが、取り次ぐときに「ちょっとお待ちください」ではダメです。「少々お待ちください」と言葉を注意されます。ですから、普段も上級生や卒業生とお話をするには、言葉を選んで正確に敬語を使わなくてはいけなかったもので、すごく大変でした。

先輩は、歩くこと、言葉遣い、動作など何ひとつ見て見ぬふりはしませんでした。ピシッと注意されます。部屋に帰ろうが食堂に居ようが、日常生活動作全部に亘ってです。

大声で笑ったりすることも、話すことも…どこに行っても休まる時がありませんでした。

神様、仏様、ただの人

極端にいうと3年生は神様、2年生は仏様、1年生はただの人。学生同士のギャグで、こんな表現で呼ぶ一面もありました。

学生時代印象に残っていることで、ユニホームの袖(実習時の場合)のことがあります。長袖なのに1年生の時は、肘まで上げなくちゃいけなくて、おろすことができません。その袖のあげ方も、ぐちゃぐちゃじゃダメ、きちっと折れてないとダメ。2・3年生になればやっと袖を手首まで降ろすことができます。

こんなことは普通では考えられないことで、私はどちらかというところ「なぜそんなことしなくちゃいけない」と反発する方ですが、当時はちゃんとしなくちゃいけない、と思ってやっていましたけれど。

またユニホームは自分で毎日きちんとアイロンをかけ、シワ一つないようにするのが当たり前になっていました(当時の布は、木綿のためシワがすぐできた)。だから腰を降ろすのにとても気を使いました。授業中の座り方も丁寧に座らないと、すぐシワがついてしまいます。だから常に、普段からすごく気を遣って着ていました。これは卒業してからも厳しいことでした。

入浴の作法

お風呂に入る時は、石鹸とタオルを入れたベースンを小脇に抱えて立ってサッサとなんか入れない。まず入口で立て膝をついて戸を開け、ベースンを持ち上げて(捧げて)、「失礼致します」と、お辞儀をして浴室に入ります。

1年生は入り口で奥には行けません。時には先輩たちの洗いが流れてくることもありました。

いろいろな面で厳しい体験をしてきましたので、今の人々の言葉遣いや、礼儀や動作を目にして、あまりの粗野に失望することが時にあります。

未来の白衣の天使たち

その2



J A静岡厚生連するが看護専門学校 石野 佐織 2年

- ① 実習で出会った患者さまからは机上では学べないたくさんのことを学ばせていただきました。患者さまと過ごさせてもらう中で個性を知り、日常生活援助をさせていただくことでADLの自立の難しさ、大切さを実習を通して学ぶことができました。
- ② 入院とは患者さまにとって非日常であり、ストレスを抱える場でもあります。少しでも患者さまが安心して過ごせるように患者さまと距離が近い相談しやすい雰囲気のある病院(病棟)で働きたいと思っています。
- ③ 実習でお世話になった看護師の皆さんは忙しい日々の中でも患者さま一人ひとりをよく見ておられました。患者さまが望まれていること、辛いことを心身傾聴し看護をしている姿を見て皆さんのような看護師になりたいと思いました。



東海アクシス看護専門学校 川隅 紗 2年

- ① 演習の授業で学んだ採血や静脈注射などです。今まで行ってもらった側だったが、自分が処置する側になるという実感が湧いたことが印象に残っています。目的や行う根拠、方法、手順を学び、看護師へ一歩近づいた思いでした。
- ② 授業や実習を通しチーム医療の大切さを学びました。看護師同士はもちろん、医療にかかわるすべての人達と信頼関係を築いていける場所で患者さんとそのご家族を支える仕事ができたらと思っています。
- ③ 実習を通して看護師の方が、患者さん個人の尊厳を守り臨機応変に対応していたこと、常に患者さんの目線に立って笑顔でいる姿などを見て私の目標になっています。これからも看護師の方からたくさん学び得たいです。



静岡市立静岡看護専門学校 栗田 真央 3年

- ① 私は実習で、患者さんにとって何が苦痛であるか、どうしたら安楽に過ごせるのかと視点を持って関わる大切さを学びました。自分で考えて自分なりに工夫したことを実践した時、患者さんの反応から看護のやりがい、喜びを感じました。
- ② チーム医療が不可欠となっている現代で、他職種との連携に看護師の存在は大きいと思います。スタッフ同士の交流がとりやすく、アットホームで温かみのあるところで働きたいです。
- ③ 確かな知識と技術の上に優しい眼差しと笑顔で患者さんに寄り添う看護師の姿に尊敬と憧れを抱きます。私も患者さんにとって一番身近で安心感を与えられる看護師になれるようこれからも頑張りたいと思います。



浜松市立看護専門学校 黒川 奈緒 3年

- ① 在宅看護論実習で多くの患者さんとお会った。その中で、患者さん達は生き生きと暮らしており、一人ひとりから「その人らしさ」を感じることができた。患者さんにとって自宅は慣れ親しんだ環境であり、家族と生活することが「その人らしく」いるために大切なのだと分かった。そのような経験から、疾患だけでなく人生観や価値観、家族のことなど幅広い視点で対象を見つめることが大切であるということ学ぶことができた。
- ② 患者さんのことを一番に考え、看護師同士で自由な意見交換ができるようなところに就職したいです。
- ③ 常に患者さんのことを一番に考え、心に寄り添った関わりができる看護師になりたいです。



聖隷クリストファー大学 鈴木 美和 4年

- ① 急性期実習において術後の患者に関わりすぎてしまい不快感を与えてしまったこと。学生という立場は看護師と違い、患者に気を使わせてしまうということ。患者の状態を判断し、今何をするのがこの人にとって一番いいかを深く考えることを学んだ。
- ② 新人への教育が厳しくも厚く行われているような病院で働きたい。病院独自の職務内容や仕事においての心がまえ等を先輩看護師から学んでいきたい。
- ③ 実習期間では忙しい職務の中、ご指導や実習生のケアに付き添って頂きありがとうございました。今後、様々な実習で関わらせて頂いた看護師さん達の指導を生かして勉学に努めていきたいと思っています。



静岡県立東部看護専門学校 高柳 鈴華 3年

- ① この学校に入り、自分と向き合う機会に恵まれた事に感謝しています。
私は、実習をとおして自分の性格や特徴を客観的に捉えることができました。自分の良いところや改善すべきところを見出すことができ、今後看護にも生かすことができると実感しています。
- ② 人間として看護師として、成長したいと思います。そんなことから、尊敬できる先輩の背中を見みながら、日々成長できる職場で働きたいと思っています。
- ③ 日々の業務で忙しい中、わからず困っている私に声をかけていただき、丁寧に教えていただきました。その事が励みになり、実習を頑張ろうという前向きな気持ちで、最後まで実習に臨むことができました。ありがとうございました。

未来の私達の仲間になる県内養成施設の看護学生23名に、学生生活の今と将来について感じていること考えていることを聞いてみました。

質問内容

- ①看護学校で学んだことについて印象に残っていること
- ②こんなところで働きたい
- ③看護師にひとこと



ベッドメイキング実習(東海アクス看護専門学校)



静岡医療センター附属静岡看護学校
西山 弥幸 2年

- ①私は、患者さんの数だけ看護の方法があることが一番印象に残っています。同じ病気であっても原因や症状、生きてきた過程は皆違います。そのため、対象に合った看護が必要となります。だからこそ、看護は奥が深く難しいと思うとともに、もっと看護を知りたいと感じました。
- ②いろんな知識や技術が修得でき、自分の持つ能力を最大限に発揮できること。またいろんな人と接し、看護についてはもちろん、一人の人間としても成長できるようなところで働きたいと思います。
- ③看護師の優しい表情や声掛けが、患者さんを笑顔にする場面を何度も目にしました。看護師の笑顔は、患者さんの心を癒す力があります。私も憧れの看護師を目指し、日々努力していきます。



下田看護専門学校
前嶋 咲紀 2年

- ①対象者のセルフケア能力を高める援助は、共感と表情から読み取ることがセルフケア能力を見極める上で重要であると知りました。また、対象者の家族や関係者と関わることで病院では見られない患者像を捉えられ、価値観を受け入れることに繋がると学びました。
- ②日本は超高齢社会となり、益々医療の充実化や看護師の活躍が求められています。私は誠心誠意努力し看護をしたいと考えています。つまり対象者の苦しみや不安の気持ちを読み取り、苦悩を共有できるような看護の場で働きたいと思っています。
- ③実習の中で関わる看護師の方は、対象者に対して熟練された看護技術と知識を用いて質の高い看護を提供していると思います。実習を通し、理想の看護師に成長出来るよう多くの学びを得たいと思います。



静岡医療科学専門学校
水谷 八香 3年

- ①印象深い学びは実習です。座学での学びをもとに患者さんの病態・個性や背景などに触れることで看護をより深く知ることができ、感動や驚きの連続でした。看護への期待をより一層深めることができました。
- ②将来は活気のある病院で働きたいと思っています。今実習させていただいている病院は、どこも活気がありスタッフが明るく生き生き働いています。私もそのようなスタッフの一員になりたいと考えます。
- ③看護師が明るく笑顔で関わることは不安な入院生活を送る患者さんの支えです。どんなことも相談でき頼りになり患者さんにとって一番身近な存在であること、私自身の入院経験や現在看護学生として実習を通して実感しています。



島田市立看護専門学校
村松 修司 3年

- ①誕生日を迎えられた患者さん(大工さんでした)に折り紙で作った首飾りと画用紙で作ったのこぎりとトンカチをプレゼントして看護師さんたちとハッピーバースデーの歌を歌った時の患者さんの表情は忘れられないです。
- ②毎回実習で行く病棟は、いつも全て好きになってしまうので全然具体的に考えられないです。でもやっぱり患者さんの笑顔や元気に退院する姿が見られるところで働きたいなと思っています。
- ③実習でお世話になった指導者さんはみんな私の憧れの先輩です。知識も豊富で冷静に分析する力やスムーズな清潔ケアの様子見て、いつも「カッコいいな」と思っていました。私もあんな風になれるよう頑張りたいです。



御殿場看護学校
渡邊 亜梨沙 3年

- ①私は3年生になり、臨地実習を通して人は一人ではなく、その方の周囲には支えてくれる家族や社会資源があることを強く感じています。そのため看護師は入院中だけでなく、退院後の生活にも目を向けた看護を提供していくことが大切なのだと改めて学びました。
- ②私は、将来ホスピスで働きたいと考えています。理由はどんな疾患を持っていたとしても人生の最期にいい人生だったと思う事ができたらとても素敵だと思うからです。そして少しでも御本人と御家族の心残りが少なくなるような看護をしたいと考えています。
- ③私の母も看護師で、その姿を見て3歳から私も看護師になりたいと目指してきました。綺麗な仕事ではないし、理想と現実のギャップに悩まされることも多い職業だと思います。しかし、誰かに元気を分けてあげられる職業は他になく、誇れることだと思います。

募 集 し ま す

募集1 「看護しずおか」表紙

看護しずおかの表紙を飾る写真を募集します。
テーマ: 看護のある風景
(家族など看護職でなくても結構です)

募集2 読者の広場

皆さんに知らせたい、知ってもらいたい「活動」や「意見」などなんでも結構です。写真などもご自由に投稿してください。

募集3 クイズ

クイズの問題を募集します。
どんな内容でも結構です。



皆さん、どしどし応募下さい。お待ちしております!
詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.shizuoka-na.jp/>

ワールドカフェ

ワールドカフェとは…

与えられたテーマについて、各テーブルにて数人がフリートーク。次にテーブルホスト以外は他のテーブルへ移動しトークを繰り返す。

◎私のワークライフバランス

家事の負担
休日の過ごし方
趣味のこと…

◎心に残った看護

人から感謝されて
思わず涙が出たとき
がんばろうと
思ったこと

◎看護管理者への道

スペシャリストか管理者か…
夢へのジレンマ

◎フリートーク

トイレ問題
昼休憩は気を使う…

その他のテーマ

- ◎WLB
- ◎人との付き合い方
- ◎田中 57歳
- ◎起業家への道
訪問看護師

男性ならではの内容のフリートーキングタイム。さまざまな話題で大いに盛り上がっていました。

あなたはどのように考えますか？

見つけよう! 私のキャリア・デザイン

パネリストのみなさん……



ジェネラリストとして
富士市立中央病院

田中秀樹氏

<ジェネラリストとは>

- ①幅広い知識を持つ
- ②広い視野で物事をみる
- ③常に患者の視点で考える
- ④管理職やスペシャリストではない、
マルチな活動ができる
- ⑤患者のマネージャー的な存在

<大切にしていること>

- ①気づき
- ②看護観
- ③振り返り

<良いこと>

- ①役割が多く、やりがいに繋がる
- ②患者とより接することが出来る

<抱えている課題>

- ①教育的な関わりへの積極性
- ②男性看護師としての役割意識



皮膚・排泄ケア
認定看護師(WOCN)
聖隷三方原病院

佐奈明彦氏

<認定看護師としての覚悟>

- ①自己研鑽を継続する
- ②常に自分の「限界」を知る
- ③講義依頼は断らない
- ④効果的な「フィードバック法」
「実践」「OJT」を考える
- ⑤組織や教育システムの構築

<男性看護師の方へ>

- ①「男の仕事として…」という
言い回しをしない
- ②「これだから女は…」という
言い回しをしない 評価すべきは
「性別」ではなく、「個」です
- ③男性看護師は目立つ、という自覚を
- ④自信の持てること、負けないことをつくる
自分の持てる能力を発揮しましょう

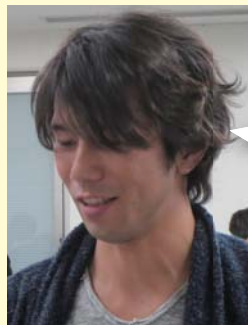
<取材を通して>

ワールドカフェはグループワークとは違い、発表という形がないからこそ、看護師として感じたことや男性看護師ならではの悩みなどを積極的に率直に話し合っていました。10のテーマの中でWLBは集まりが早く、性別に関係なく興味のあることだと感じました。看護の社会はまだまだ女性が多く、男性看護師は大変さを感じることもあると思います。今回の研修が参加者にとって実りあるものとなり、今後に役立てられるものとなることを期待しています。

参加者の声



好生会三方原病院
戸沢雅春さん
・17年目
みんなも悩んでいるんだとホッとできました。西部でも開催してもらえると嬉しいです。



富士市立中央病院
幸塚 敬さん
・11年目
上司に勧められ参加しました。働き始めた頃の実りを思い出しました。

中東遠総合医療センター
影山航平さん
・2年目
師長に勧められて参加しました。将来像が定まらなくて……。認定にも興味を持ちました。



静岡市立静岡病院
河村拓哉さん
・1年目
今後の参考になればと参加しました。自分の中で自信になればいいなと思います。



H26.10.16 男性看護師研修会が あざれあにて開催されました。



経営者として
どこでもクリニック
坪田康佑氏

少子高齢化のビジネスモデルとして、移動型クリニックを運営するために独立。

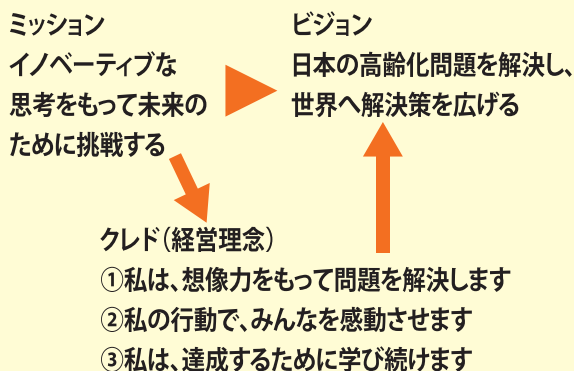


認定看護管理者
袋井みつかわ病院
齋藤直志氏

臨床での専門性を求めて
・手術室での自己の専門性を高めることを目標とした。
・病院初の婦長(師長)となり、臨床工学技士資格も取得。

看護管理の専門性を求めて認定看護管理者となる。
2006年～経営的視点の学びを求め経情・公共政策・医療経営を学ぶために大学院入学、終了。
医療政策の動きと組織の対応、経営戦略を計画する面白さを知った

<ミッション・ビジョン・クレド>



読者の広場

未来の天使たちの言葉が初々しく、希望にあふれていて素敵でした。

活躍しているナースの方々の紹介はとても興味深く拝見しました。働き続けるエネルギーがもらえます。



藤森記子さん

もう“ひとこと”で仕事が生きる!

看護職の姿は患者さんなどにどのように映っているか…。自分達の姿を知る鏡として、これから順次、看護職をよく知る方々にお話を伺っていきます。

今回は、重症心身障害のため35年間病院生活を余儀なくされた弟の介護と乳がんが10年後肺に転移した母親の介護を経験した藤森記子さんにお話を伺いました。

弟さんから見た看護師は…

弟は、重度心身障害児で16歳から51歳の亡くなるまでずっと病院生活でした。その中で言っていたことは、「僕は、看護師さんの聞き役をしていたよ。看護師さんも疲れているんだね。家であったことを僕はいつも聞いてたよ。今日ご主人と喧嘩したよっていう話を聞いたよ。ヒロ(弟の愛称)聞いてって看護師さんたちが話に来るんだよ。」と。「じゃあ、ヒロは可愛がられてるの?」と聞くと、「うん可愛がられてる。なんでかっていうと、僕文句言わないし、なんにもしないから。でも看護師さんによってはすごい気分がいい看護師さんと悪い看護師さんがいるんだ。」っていうのは聞いてました。例えば、「今日ヒロ、うんち長いねとか、うんちちゃんと出した?」とかいちいち言ったりするのは嫌なようでした。食事でも無理矢理、口に食事を押し込むようなこともあり、むせてしまって戻すと逆に手間がかかってしまうから怒るような看護師さんもいたようです。

介護者にとって看護師は?

私たち家族は、土・日は必ず面会に行っていましたし、自宅に外泊させたり家族で旅行に行ったり、できる限りのことをしてきました。面会時や外泊の時などは、私自身も食事介助をしてましたので、流動食ならいいけど少しのつぶつぶや刻みがあった場合は、ゆっくり誤嚥しないように介助することや誤嚥しないように鼻からチューブを入れてやる注入の仕方や痰の吸引の仕方も看護師さんに教えてもらいました。そのお蔭で家でもできるようにになりました。

弟が可愛がってもらえたように、私もそのようにしてもらえたんですよ。未だにお世話になった看護師さんとお手紙のやり取りをしています。40年位母とやり取りしていて、母が亡くなってからは私って感じで。

お母さんの介護で感じたことは…

母は、乳がん発症から10年たって肺がんを発症。最後の2週間はモルヒネを打ちっぱなしになりました。看護師さんに背中拭きの方法を教えてもらい、息子たち(母からすると孫)が全部やっていました。昼間は長男と次男と三男が交代で付き添い、夜は私が付き添いました。

母は、抗がん剤投与で、吐いて、ゲーゲーなっていて、身体中汗びしょりで、フーフー言っていました。本人も辛いですが、家族もそれを見ているわけですからもっと辛いです。その時に、どういうふうに対応したらいいか、背中をさすっていいのか、何をしたいのか、熱が出ていけば身体は温めた方がいいのか、冷やした方がいいのか等々、事前に抗がん剤投与をした後の症状の出方やそれに対する対応の仕方を教えていただけたらとありがたかったかなと思います。後になって、「こうしておけばよかったね。」と言われたことを思い出されます。

ただ、「こういう投与をします。」といった本当に通り一遍の物の言い方しかされなかったのも、寂しかったです。

家族は、「抗がん剤投与によってこういう症状が出てくるかもしれない。人それぞれ違うけどこういうものがあるよ。」って教えていただければ、こういう時はこういう対応をすればいいんだっていう心構えができるのではないかと思います。

看護師に伝えたいことは?

お医者さんが簡単なことをぼろっと言いますよね。そのフォローをしてくれるのが看護師さんなんですよ。さっき先生が言っていたことはこういうことですから聞くと「そうよ。それでいいのよ。」って、耳打ちじゃないけど何とも言えないニュアンスで教えてくれました。看護師さんが味方でした。医師の技術も素晴らしいと思いますが、看護師さんの陰の力、家族とのやり取りの力がメインだと思います。

入退院が初めての家族は、実際にはそういうフォローがないと不安です。簡単に「明日手術です。」といわれ、「これとこれを準備してください。明日何時に来てください。」と言われただけでは家族は不安ですよ。それだけじゃなくて、「これくらいの時間がかかってね。こういうふうになるのよ。」ってちょっと付け足してもらえると、気持ちの上では肩の荷が下りると思いますよ。そういうのが看護師さんの仕事じゃないかな。カルテを見て、医者から言われたことだけをすればいいんじゃないかと、患者さんとの言葉かけ“ひとこと”が一番大事じゃないかなと思います。それがあかないかで看護師さんの仕事が生きる仕事になると思います。それによって家族は救われると思います。

看護師さんに助けてもらって感謝!感謝!です。

多職種連携強化交流会 ～チーム医療のためのコミュニケーションスキル～

働き続けられる職場づくり推委員会主催で井上真智子先生をお招きし、10月4日(土)に「チーム医療のためのコミュニケーションスキル」をテーマに多職種連携強化交流会が行われました。各施設から2～4名の多職種が1チームとして参加していただき、総勢18職種、68名が集い多職種連携を強化するために必要な知識・技術を理解することを目標に、コミュニケーションスキルを実際に活用しながらの研修でした。



講師：井上真智子先生
浜松医科大学
地域家庭医療学講座



グループワーク、事例検討の課題
～先生方による寸劇の様子～

多職種連携に必要な6つの観点 カナダの「多職種連携」能力の枠組み

- ・「役割」の明確化
- ・共通の目標・ゴール
- ・衝突・対立(コンフリクト)の解決
- ・協働するリーダーシップ(主体的な協力)
- ・患者・家族・地域を中心としたケア
- ・職種間のコミュニケーション

後半は、「自施設で多職種連携を進める上での問題点や取り組みたい課題は何か?」を施設ごとに提起。ワールドカフェ方式のコミュニケーションスキルを使用し、他施設からの多数の意見を取り入れて「多職種連携強化計画」を作成しました。各施設に持ち帰り、交流会で学んだコミュニケーションスキルとともに広め、多職種連携強化のための活動計画を実行に移していると思います。

働き続けられる職場づくり推進委員会



ケアする人のケア いわたキッズと親の交流会 平成26年10月18日(土) ……みんな笑顔いっぱい……

障害を持ちながら、在宅療養をしている療養児と家族の交流会を持ちました。

バルーンアート、紙芝居などで、子どもたちは直ぐに笑顔になりました。その場にいた大人たちがその光景を見て、幸せな笑顔でいっぱいになりました。



子供たちには、新しい友達との出会いの場となり、歌や手遊びを通して喜びを身体で表現していました。その間、お母さんたちは、「レスパイト先の情報は?」「2人目をどうしようかな」「〇〇はどうしてるの?」などと情報交換に余念がありませんでした。楽しい時間もあっという間に終わりましたが、今後も定例会として交流会を持つことが決まりました。

私たちスタッフも、同じ思いを共有し、互いに励まし合い、悩みを相談できる参加者の関係づくりを促進することができ、笑顔いっぱいになりました。今後の目標は、母親同士が自立して活動できるよう支援していくことです。応援してください。

(訪問看護ステーションいわた 花咲千恵)

**看護職のWLB推進フォローアップ・ワークショップ 平成27年1月17日(土)実施
聴講者10名募集! ホームページにて受付中・FAX可(12月19日まで)**

1 新人看護職員研修

5月6日「看護としての自覚と責任」で始まった新人看護職員研修は、「医療安全・感染管理」「人間関係」「救命救急処置」「フィジカルアセスメント」と一步一步積み重ねて進行しています。

この研修は、新人看護職員研修ガイドラインに基づき、新人看護職員が安全で確実に看護が実践できることを目的とし、多施設合同で開催しています。今年度から年間を通して受講する形に変更し、17施設から42名が参加しています。新人看護職員がリラックスした中で学習できる環境を整えるとともに、各施設の指導者に研修の様子をかわら版にして伝え、施設の指導者と連携を図れるように努めています。

受講者は、他施設の同期生と話し合い交流を深め、臨床とは違った環境の中で技術の確認や患者の思いに添った援助について学ぶことができています。

残す研修は、「摂食・嚥下障害のある患者の食事援助」「身体機能維持のための援助」「自己の成長について考える」の3種類です。10か月に及ぶ研修最終日には、どのように成長されるか2月が楽しみです。
新人看護職員研修担当



2 ファシリテーター研修



今年度教育委員会では組織的役割遂行能力の育成研修としてファシリテーター研修を企画しました。看護専門職に必要な自律性・主体性を育む「支援」と「促進」を実践するためのファシリテーション技術を学び、演習を繰り返しながらその技術を習得するという目標で行いました。日本体験学習研究所の杉山郁子先生をお招きし、8月5日から開始されました。宿泊研修場所である富士教育研修所は、豊かな自然に囲まれ、長いメタセコイヤ並木を通った先にあり、夜はフクロウの鳴き声しか聞こえないような閑静な場所でした。研修生29名は2泊3日寝食を共にし、「共に学ぶ仲間づくり」「リーダーシップとは何か」「お互いの影響関係に気づく」など多くのセッションを通し、「振り返り、わかち合い」を繰り返すことで、苦しみながらも新たな

自分を発見したり、自分を承認されることの喜びを感じたりと多くの事を学びました。また、6日間の研修で「自分らしいファシリテーションとは」を問い続け、「自分らしく動いてみる」こと、ファシリテーターとして大切なことを学び、ファシリテーション技術を習得していきました。今回の研修で多くの「種」が蒔かれました。研修生の今後の活躍を期待するとともに、次年度も同研修を企画していきたいと考えています。
教育委員会 飯沼むつみ

3 “家で暮らしたい”を支援する—在宅移行を支援する看護師の育成—

8月21日、22日、10月3日に、在宅ケア移行支援研究所の宇都宮宏子氏を講師に迎え“家で暮らしたい”を支援する—在宅移行を支援する看護師の育成—の研修を実施しました。

2025年を見据え平成26年度診療報酬も改定され、今後ますます在宅療養の充実が求められ、病棟・外来勤務の看護師にも入院時から在宅での暮らしを目指した支援が期待されています。静岡県看護協会では他に先駆けて病棟・外来で勤務する看護師を対象にした在宅支援に関する研修を企画・実施し、定員の2倍を超える応募がありました。

3日間の研修では、初日は在宅療養に関する現状と在宅療養移行支援について、また2日目は地域連携室、地域包括支援センター、訪問看護など関連部門の講義が行われました。3日目には研修生が自施設で関わった退院支援の体験を元にグループワークを行い発表しました。この体験は約1ヶ月という短い期間で実施しましたが、研修生は自施設で関わった退院支援についてまとめ、訪問看護実習を実施してくるという課題に取り組みました。大変さもあったかと思いますが、意図的に退院支援に取り組み、訪問看護の機会を得て、実際の在宅での暮らしを知り、『患者や家族の本当の思い』に対する意思決定の支援の難しさや、関連部門との調整の困難さと必要性などを実感した貴重な体験になったようです。

互いの施設での取り組みを話し合う中で、退院に向けて自分達にできることを明確にしていき、自施設での実践に繋げていくための学習となりました。看護職の退院支援に関わる役割は、今後も必要性が高まるものと予測され、次年度もこのような研修を継続していきたいと考えております。
教育委員会 林恵子



ナースセンターから3つのお知らせ

お知らせ 1 メールマガジン配信開始

耳寄り情報をお届け



就業・再就業等に関する相談会や研修などの情報をメールマガジンで配信します。

配信開始時期等詳細はナースセンターホームページに掲載(購読登録も)しますので、ご覧ください。

お知らせ 2 高齢者ケア施設見学会 ～みんなでツアーに行こう～

病院施設だけでなく、高齢者ケア施設にも医療・看護を必要とする人が増えています。他職種とのチーム連携や急性期病院の看護との違い、やりがい感、看護の特徴を現場で体感してみましょう。

※参加無料 ※託児費の支援もあります。



病院しか知らないけど、
高齢者ケア施設って
どんなところかな

地 区	月 日	見学施設
東 部	1月28日(水)	①介護老人保健施設 梅名の里 ②介護老人保健施設 ラサンテふよう
中 部	2月18日(水)	①介護老人保健施設 エスコートタウン静岡 ②介護老人保健施設 萩の里
西 部	1月30日(金)	①介護老人福祉施設 梅香の里 ②ケアハウス ゆやの里

※詳細はナースセンターホームページおよび別添のチラシをご覧ください

お知らせ 3 求職登録手続きの簡略化

2015年4月からナースセンターへの求職登録手続きが簡単になります。

登録に必要な入力項目は**4項目入力**で**ユーザー登録OK!**

詳細な求人情報は**基本情報13項目入力**で閲覧可能。

求人施設検索や相談、施設への応募も個人で簡単にできるようになります。

携帯(スマートフォン対応)、パソコンからでも登録時間が短縮。



登録が簡単にできた。相談にも行ってみよう!

悩みは誰かに話しましょう。

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。
お気軽にご利用ください。

【専用ダイヤル】 **054-202-1780**

日 時	平日 9時～16時	TEL 054-202-1780
場 所	静岡県看護協会 会館	
日 時	毎月第1金曜日 10時～15時	予約制 専用ダイヤルへ
場 所	看護協会西部地区支部事務所	
日 時	毎月第3金曜日 10時～15時	
場 所	看護協会東部地区支部事務所	

- 平成26年度継続・入会申込は、11月28日で終了します
看護職賠償責任保険制度(平成26年11/1～補償開始)に加入を希望される方は、平成26年度会員資格が必要です。上記期日までに、加入お手続きをお願いいたします。
- 平成27年度継続・入会申込は、12月1日より受付開始します
11月下旬までに、平成27年度入会継続申請書類等をお送りしますので、しばらくお待ちください。
会員期間:平成27年 4月1日～平成28年 3月31日(1年間)
*平成27年4月1日から会員サービスを受けることができるよう、お早目にお手続きください。平成27年1月末までに日本看護協会の登録手続きが完了されている場合は、平成27年3月中の会員証送付が可能です。
問合せ先・資料請求 総務部 054-202-1750

今年(平成26年)は看護職員業務従事者届出の年です。

保助看法第33条により、保健師・助産師・看護師・准看護師は、平成26年12月31日現在における就業状況を、平成27年1月15日までに就業地の保健所に届け出なければなりません。後日、県から各職場を通じて「届出票」や「記入要領」等が配布されますので、届出票の作成及び期限内提出についてよろしくをお願いします。
詳しいお問い合わせは、静岡県健康福祉部地域医療課医療人材室(054-221-2407)まで。

静岡県看護協会ホームページ「スマートフォンサイト」のご案内

平成26年10月15日より、スマートフォン用のホームページをご覧いただけるようになりました。教育研修申込み・ナースセンター(再就業支援)など、よくお使いいただいている項目を押しやすいリンクボタンやアイコン形式で表示しています。是非ご利用ください。



医療安全情報 平成26年度 第4弾

医療安全推進のための標準テキストから ～医療安全推進のための基本的な考え方～

働き続けられる
職場づくり推進委員会

今回のテーマ “医療安全対話推進者について”

医療事故発生時においては、患者・家族と医療者との信頼関係が揺らぐ可能性があります。その信頼関係を保つためには、医療者と患者・家族間の対話や意思疎通を支援する必要があり、その役割を担う医療対話推進者を配置する医療機関が増えています。

医療機関における
医療対話推進者の
位置づけ

医療対話推進者は、各医療機関の管理者から患者・家族支援体制の調整と対話促進の役割を果たす者として権限が委譲され、管理者の指示に基づき、医療安全管理者、医療各部門、事務関係部門と連携し、組織的に患者・家族からの相談等に対応することを業務とする者とする。

医療対話推進者の
業務

- ・患者・家族支援体制の構築
- ・患者・家族支援体制に関する職員への教育・研修の実施
- ・患者・家族への一次対応としての業務
- ・患者・家族からの相談事例の収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
- ・医療事故や、医療事故を疑った患者・家族からの申し出に関して対応すること
- ・説明と対話の文化の醸成

平成24年度に改定された診療報酬においては、「患者サポート体制充実加算」が新設され、患者・家族の不安の解消に積極的に取り組んでいる医療機関が評価されるようになりました。

「医療安全推進のための標準テキスト」は日本看護協会のHPからもダウンロードできます。

公益社団法人 日本看護協会看護開発部看護事業課 URL: <http://www.nurse.or.jp>



クオカードが当る!

次の4文字熟語の□に入る語を並びかえてひとつの熟語を作ってください。

□ 期 尚 □

□ 耕 □ 読

答え.

□ □

応募方法

葉書又はメールに答えをお書きのうえ、下記にお送り下さい。正解者の中から、抽選で5名の方にクオカード(1,000円分)を差し上げます。当選者はVol.5に掲載致します。(ペンネーム可)

●下記を記入の上応募してください

◆答え ◆氏名 ◆所属 ◆電話番号 ◆〒 ◆住所
◆看護しすおかの感想 ◆看護協会への御意見

お寄せいただいた御意見・御感想は、看護しすおかに掲載させていただくことがあります。

●締め切り: 12月20日(土)消印有効

●宛 先: 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会 総務部 看護しすおかクイズ 係
メールアドレス: kango@shizuoka-na.jp

当選者

●クイズ(vol.3)答え: 月見

●当選者: 金澤祐理様・海野成未様・山田峰子様
江川有里紗様・ペンネーム アヤリン様